

※前回、2022年
9月以降の情
報を掲載いた
しました。

(仮称) 古平・仁木・余市ウインドファーム事業

「今日までの足跡」

— 仁木町の風力発電を考える会編

目次

1. ～仁木と関西電力風車計画・これまでの流れ～	2.3 ページ
2. 陳情書	4～7 ページ
3. 署名状況	8～10 ページ
4. 資料各種	11～20 ページ
5. 陳情書その後	21～24 ページ



～仁木と関西電力風車計画・これまでの流れ～

2022年 1月	1月20日	<p>★関西電力が大江・銀山の町内会長を集め、町の住民課立ち合いの許、「古平・仁木・余市風車建設計画」の発表と説明が行われるも、地元住民には知らせないようにと、口止めされる</p> <p style="text-align: right;">銀山生活改善センター、15名の参加者</p>
5月	5月24日	<p>★ふたたび大江・銀山の町内会長を集め、2回目の説明会が行われる</p> <p style="text-align: right;">銀山生活改善センター、15名の参加者</p>
	5月30日	<p>★関西電力ホームページにて、環境影響評価法に基づき、「計画段階環境配慮書」等を、経済産業大臣へ提出、北海道知事にも意見を求めたと公表</p>
6月	6月1日	<p>★仁木町の広報誌に風車建設計画が発表される</p> <p>★意見書提出を同月末まで受け付け、計画の繊細情報は、HPと仁木町役場窓口の「環境配慮書」（約200p）縦覧のみでコピー不可</p> <p>★発表後も、計画を知らない町民が大多数</p> <p>★それでも意見書は100通を超えた。しかし、その回答は未だ無し</p>
7月	7月	<p>★風車の健康被害や、環境破壊の実態を知った町民の有志たちで「仁木町の風力発電を考える会」（以下考える会）を発足</p> <p>★林副町長に学習会開催許可を打診、承諾頂くとともに、関西電力側からの説明会も開催すべきとの意向を受ける</p> <p>★即、副町長より、関西電力に対して、風車の説明会を要請して頂く</p>
8月	8月10日	<p>★銀山生活改善センターにて、「考える会」主催「第一回風力発電を学ぶ会」開催</p> <p>★銀山地区住民を中心に約50人が参加</p>
	8月17日	<p>★仁木町佐藤町長より、北海道知事に意見書提出（別紙添付6ページ）</p>
	8月20日	<p>★仁木町民センターホールにて、「第2回『STOP風車』学習会」開催</p> <p>★約100人が参加（講師：佐々木邦夫氏、斉藤武一氏、土井茂子氏）</p>
	8月23日	<p>★経済産業省より事業者（関西電力）に対する意見書（別紙添付9ページ）</p>
9月	9月初旬	<p>★関西電力から4名の職員が銀山の施設や町内会長宅を訪れる</p>
	9月12日	<p>★北海道鈴木知事より事業者（関西電力）に対して意見書発行（別紙添付14ページ）</p>
	9月22日	<p>会より関西電力に、説明会の要望書提出。10月20日付けで回答あるも、5月11日現在未だ開かれず。 （別紙添付17、18ページ）</p> <p>会より「北海道環境影響評価審議委員会」へ要望書（19～21ページ）</p>
	9月23日	<p>★仁木町民センターにて「第3回『STOP風車』学習会」開催 （講師：佐々木邦夫氏、斉藤武一氏、土井茂子氏、中山奈月氏）</p> <p>★署名活動開始（別紙添付26ページ）</p>
10月	10月22日	<p>★仁木町民センターにて「第4回『STOP風車』学習会」開催 （講師：佐々木邦夫氏、出演：中山奈月氏、村沢敏子氏）</p> <p>★ネット署名活動開始</p>

11月	11月6日	★11月6日YouTube「和yogiチャンネル」で仁木風車の件、アップされる
	11月19日	★仁木町民センターにて「第5回『STOP風車』学習会」開催 (講師：小野寺まさる氏、斉藤武一氏) ★アンケート調査開始
12月	12月9日	★『学ぶ会兼対話会』大江、関西電力主催
	12月10日	★『学ぶ会兼対話会』銀山、関西電力主催
	12月17日	★仁木町民センターにて「第6回『STOP風車』学習会」開催 (講師：手代木隆二氏)
2023年 1月	1月21日	★仁木町民センターにて「第7回『STOP風車』学習会」開催 (講師：宮嶋望氏「食と環境と発酵」)
2月	2月17日	★町長へ陳情書と署名提出 (別紙添付23、24ページ、36ページ新聞記事)
	2月18日	★仁木町民センターにて「第8回『STOP風車』学習会」開催 (講師：市川守弘氏「風力発電は正義に反する」)
	2月27日	★「仁木町脱炭素×再生可能エネルギーセミナー」町主催 (別紙添付36ページ)
3月	3月10日	★町議会へ陳情書提出 (別紙添付25ページ)
	3月11日	★仁木町民センターにて「第9回『STOP風車』学習会」開催 (講師：星澤幸子氏「自分を愛する生き方」)
	3月19日	★仁木町民センターにて「第10回『STOP風車』学習会」開催 (講師：山田征氏「再エネの真実と私たちの未来」)
4月	4月15日	★仁木町民センターにて「第11回『STOP風車』学習会」開催 (講師：岡村 聡・石崎俊一・石井正之氏「小樽余市周辺の地形と地質の特徴」)
	4月29日	★「仁木町の風力発電を考える会」ホームページ開設 (枠外参照) https://niki-wind.main.jp
5月	5月11日	★「仁木町議会総務経済常任委員会」令和5年第1回仁木町議会定例会付託 (令和5年3月22日付け付託) ●陳情書第1号「(仮称) 古平・仁木・余市ウインドファーム事業」に関する陳情
	5月20日	★仁木町民センターにて「第12回『STOP風車』学習会」開催予定 (講師：田鎖順太氏(北大助教)「風車騒音による健康影響についての科学的知見」)
6月	6月24日	★仁木町民センターにて「第13回『STOP風車』学習会」開催予定 (講師：市川守弘弁護士)
7月	7月22日	★仁木町民センターにて「第14回『STOP風車』学習会」開催予定 (講師：坪内俊憲 星槎大学元教授)
8月	8月26日	★仁木町民センターにて「第15回『STOP風車』学習会」開催予定 (講師：加藤やすこ「いのち環境ネットワーク」代表)

2023.5.10現在

※ 2023年2月17日、町長へ署名提出時の陳情書

陳 情 書

佐藤聖一郎 仁木町町長 様

横関 一雄 仁木議会議長 様

令和5年2月17日

仁木町の風力発電を考える会

代表 瀬川裕人

〒048-2335 余市郡仁木町銀山 2-521

TEL0135-33-5590

関西電力株式会社による

「(仮称)古平・仁木・余市ウィンドファーム事業」計画に対する反対陳情

1. 風力発電反対の主な4つの理由

① 低周波音などによる人体への影響

風車から発生する騒音や超・低周波音などが、周辺住民に頭痛やめまい、不眠などの健康被害を引き起こす所謂「風車病」が、国内外で報告されています。これに対し国は諸外国のような十分な調査や対応を行っていません。計画では、巨大な風車を最大64基建設する予定です。このような状況の中で、私達住民は健康被害を無視した計画を受け入れることはできません。

② 自然生態系への影響

予定地域の大半は自然度9,10と最高度、全国で19.2%のみの国有保安林で、ヒグマや野鳥など野生動物が多数生息しており、保護区としても極めて重要な地域です。北海道内では天然記念物や稀少鳥類などがバードストライクによって命を落とす例が多発しております。また、人や動植物に悪影響を与える電磁波や超・低周波が、昆虫や土壌微生物に影響を与えない訳はありません。農産物にも被害が及びます。CO₂を削減する樹木の永久機関を破壊して、20年も持たず、瓦礫と化する風車の建造は、本末転倒であり、自然エネルギーとして相応しくありません。

③ 土砂災害・水質悪化の恐れ

風車建設予定地の大半が水源かん養保安林です。風車のための工事道路やヤード造成のため、稜線沿いの樹林伐採や土盛りによって、土砂崩れや流亡、上水の水質が悪化する恐れがあります。殊に稲穂峰側の水田地帯での水源の枯渇や用水の泥水化の懸念があり、風車建設による自然破壊、営農崩壊は十分懸念されるところです。

④ 社会福祉施設に近接する事業計画地

銀山地区には、社会福祉施設「銀山学園」と、児童養護施設「櫻ヶ丘学園」があります。また古平町には古平福祉会「共働の家」があり、どちらも事業実施想定区域からほど近い距離に立地

しています。銀山学園を創設した先人達によって、「誰もが幸せになれる地域」を目指して、地域づくり活動を実践して来ました。このように自然豊かで心安らかに生活を営む環境であるにも関わらず、眼前の至近距離での計画は、人道的かつ道義的にも問題があり、入所者への心身の安定と健康が憂慮されます。

2. 関西電力の仁木町全体説明会開催を要請します

「(仮称)古平・仁木・余市ウィンドファーム事業に関する全町民説明会を求める要望書」を昨年9月22日付けで、当会が関西電力株式会社に送ったところ、10月21日付けで「開催する」との返信が、当会宛に届きました。しかし、12月9、10日に、大江・銀山の一部地域の限定的学習対話会は、開かれたものの、未だ仁木町民全体の説明会の予告も開催もありません。誠に、立て続けに報道されている関電不祥事を想起すれば、事業者の不誠実さに不信が募ります。昨年末12月20日の定例町議会においても、野崎議員の事業者の説明会開催有無の質疑に対し、町長は開催に向けて努力する旨を公言されました。近々の開催にご尽力頂きたく、お願い申し上げます。

内外に開かれた自由闊達な場と質疑の時間を十分取った上で、そのお報せを、「仁木広報」などの全戸配布記事に出来る猶予期間、および防災有線放送において町民全体に徹底した呼び掛けを要望します。これは、全仁木町民の知る権利であり、将来にわたる子々孫々の幸福と平和を守る最重要事項であります。

3. 「保安林の指定解除」に反対します

これは、林野庁発行の「保安林の指定解除事務等マニュアル(風力編)」によれば、最後は、町長及び自治会長による同意があれば、仁木町における風車の建設許可を業者に与えることになります。実質的な風車建造決定です。しかしながら、一番風車の影響が大きいと思われる当該地区・銀山では、8割以上の住民が反対署名し、昨年12月10日に開かれた銀山地区の関電説明会では、反対の声が圧倒的でした。また、ネット署名を加えれば、町の内外、全国にわたって15,000筆近くも集計されています。計画中止は、住民及び国民の悲願でもあります。

4. 結語

町長、及び、町議会議長様に於かれましては、住民の意向を十二分に汲み取って頂き、北海道知事に対して風車建設反対の「意見書」提出を、ここに切望致します。

署名された町民や全国の方々が注視する中、行政の誠心誠意ある姿勢、納得の行く回答を、仁木町内外に示して下さいを期待して、結語とさせて頂きたいと存じます。

以上

※ 2023 年 3 月 10 日、町議会へ提出時の陳情書

仁木町議会議長 横関 一雄 様

令和 5 年 3 月 10 日

「仁木町の風力発電を考える会」

代表 瀬川 

〒048-2335 余市郡仁木町銀山 2-521

TEL 0135-33-5590

「(仮称)古平・仁木・余市ウィンドファーム事業」に関する 陳 情 書

【要旨】

「(仮称)古平・仁木・余市ウィンドファーム事業」の建設に反対致します。
議会に於かれましては、3月の町議会開催にあたり、下記の事に論議を尽くして頂きたい、お願い申し上げます。

【理由】

- ① 低周波音などによる人体への影響
- ② 自然生態系への影響
- ③ 土砂災害・水質悪化の恐れ
- ④ 建設計画地が社会福祉施設に近接すること

建設予定地に近接する銀山では、8割の住民が反対署名し、仁木町全体では、約3割の署名が集まりました。道内外とネット署名を合わせれば、約1万5,000筆の署名が集まり、住民の意思を無視できない状況になりました。

これからも、仁木町民全体の意志として、請願書提出に向け、風車反対署名活動を継続していきたいと思っております。

以上、審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

※署名活動報告

(仮称) 古平・仁木・余市ウィンドファーム事業に対する反対署名

経済産業大臣 西村康稔 様
環境大臣 西村明宏 様
北海道知事 鈴木直道 様
古平町長 成田昭彦 様
仁木町長 佐藤聖一郎 様
余市町長 齊藤啓輔 様

仁木町の風力発電を考える会
代表 瀬川 裕 人

1. 低周波音などによる人体への影響

風車から発生する騒音や低周波音などが、周辺住民に頭痛やめまい、不眠などの健康被害を引き起こす例が、国内外で報告されていますが、これに対し国は十分な調査や対応を行っていません。計画では、巨大な風車を最大64基建設する予定です。このような状況の中で、私達は計画を受け入れることはできません。

2. 自然生態系への影響

予定地域の大半は自然度が高い自然林で、ヒグマが多数生息しており、野鳥の生息地としても重要な地域です。北海道内では希少鳥類などがバードストライクによって命を落とす例が発生しています。このような地域に風車は必要ありません。

3. 土砂災害・水質悪化の恐れ

風車建設予定地の大半が水源かん養保安林です。風車のための工事道路やヤード造成のため、稜線の樹林地を伐採した場合、土砂崩れや上水の水質が悪化する恐れがあります。

4. 社会福祉施設に近接する事業計画地

銀山地域(仁木町)には、社会福祉施設「銀山学園」と、児童養護施設「桜ヶ丘学園」があります。また、古平町には古平福祉会「共働の家」があり、どちらも事業実施想定区域からほど近い距離に立地しています。銀山学園を創設した先人達によって、「誰もが幸せになれる地域」を目指して、地域づくり活動を実践して来ました。このように自然豊かで心豊かに生活を行う場であるにもかかわらず、そのような大切な地域に隣接する計画は到底許されるものではありません。

このような事から、地域財産の未来を守るため、また住民の健康被害を避けるため、風力発電計画の撤回と中止を求めます。

お 名 前	住 所

ボールペンか万年筆で自筆(鉛筆不可)にて、「ㇿ」は使わないでご記入ください。ご署名いただいた個人情報の本署名以外には使用しません。ご協力いただいた署名は下記宛て、郵送でお届けください。

【郵送先】 〒048-2335 仁木町銀山 2-521 仁木町の風力発電を考える会 代表 瀬川裕人 電話 0135-33-5590

仁木 風力発電を考える会 署名活動

(2023年5月10日 18時) ※署名と陳情書提出時

NO	地 域	2023.2.16	仁木町人口
1	銀山	338	銀山学園100 (施設入所者含) 桜丘学園70 587
2	大江	60	(施設入所者含) 254
3	然別	15	77
4	仁木	688	(施設入所者含) 2,201
	仁木町 計	1,101	(内外国人121) 3,119
5	余市	505	
6	岩内	7	
7	古平	14	
8	共和	3	
9	赤井川	10	
10	札幌	1,871	
11	道内	1,224	
12	道外	573	
13	国外 (米国)	2	
	小計	4,209	
	ネット署名	10,489 361	
	小計	10,850	
	合 計	16,160	

※海外からの署名状況

氏名	都道府県(州)	国	賛同日付
Atsumi Kanno-Nandkisoro	アイスランド	アイスランド	2022/11/20
ローハン ナンドキシユア	アイスランド	アイスランド	2022/11/20
Atsuko Coffey	アイルランド	アイルランド	2022/11/6
Aiko Sato	New Jersey	アメリカ	2022/11/6
Akari Tanoue	Washington	アメリカ	2022/11/23
Akemi Watanabe	California	アメリカ	2022/11/6
Akiko Fujimoto	California	アメリカ	2022/11/7
Akiko Hardy	Oregon	アメリカ	2022/11/6
Akiko Shiokura	California	アメリカ	2022/11/6
AKIKO SUZUKI	California	アメリカ	2022/11/11
Akita Machiko	New Jersey	アメリカ	2022/11/11
Asako Kajihara	Oklahoma	アメリカ	2022/11/6
Aya Ishida	Washington	アメリカ	2022/11/9
Ayako Ohara	Indiana	アメリカ	2022/11/12
AYAKO SUZUKI	California	アメリカ	2022/11/6
Brodnick Etsuko	California	アメリカ	2022/11/13
Chikako Goodson	Washington	アメリカ	2022/11/6
Culos Yoshimi	Washington	アメリカ	2022/12/3
Deschene Kayo	Hawaii	アメリカ	2022/11/6
Emiko Ishii	Tennessee	アメリカ	2022/11/21
Eric Mackey	California	アメリカ	2022/11/6
Finkelstein Mitsuko	New York	アメリカ	2022/11/6
Fuko Zagol	California	アメリカ	2022/12/18
Hiroki Takeda	New Mexico	アメリカ	2022/11/7
Hiroko Shibata	New York	アメリカ	2022/11/7
Hiroimi Kyomiya	Washington	アメリカ	2022/11/7
Hiroimi Sasaki	California	アメリカ	2022/11/12
Ito Madoka	California	アメリカ	2022/11/8
Izumi Kamada	Wisconsin	アメリカ	2022/11/19
Izumi Williams	California	アメリカ	2022/11/6
Jenson Myako	California	アメリカ	2022/11/6
Kadowaki Yumiko	California	アメリカ	2022/11/14
Kayley Ferroggiaro	California	アメリカ	2022/11/6
Kayoko Yoshimura	California	アメリカ	2022/11/12
Kazue Kendrick	California	アメリカ	2022/11/13
Kazuyo Tajiri	Arizona	アメリカ	2022/11/11
Kazuyuki Sato	Hawaii	アメリカ	2022/11/8
Keiko Kuwahara	Massachusetts	アメリカ	2022/11/11
Keita Furukawa	California	アメリカ	2022/11/15
Kikuyo Silvestar	Georgia	アメリカ	2022/11/6
Kiwako Lau	Hawaii	アメリカ	2022/11/6
Kiyoko Henley	Nevada	アメリカ	2022/11/19
Kiyomi Helland	Minnesota	アメリカ	2022/11/6
Kumiko Whittington	California	アメリカ	2022/11/7
Kuwata Roseanna	California	アメリカ	2022/11/12
Lun Ako	Alabama	アメリカ	2022/11/8
Maeko Kramer	California	アメリカ	2022/12/29
Marcelo Kuroda	California	アメリカ	2022/11/20
Megumi Jo	California	アメリカ	2022/11/11
Megumi Kuroda	California	アメリカ	2022/11/10
Michiko Nishiwaki	California	アメリカ	2023/2/6
Miho Gallagher	California	アメリカ	2022/11/7
Miho Higuchi	Washington	アメリカ	2022/11/11
Mikiko Matsuura	Hawaii	アメリカ	2022/11/21
mikiko wood	Colorado	アメリカ	2022/11/7
Miwa Iguchi-Nguyer	Texas	アメリカ	2022/12/3
Miyamoto Toby	Oregon	アメリカ	2022/11/6
Miyoko kiguchi	California	アメリカ	2022/11/9
Nahoko Ohta	Michigan	アメリカ	2022/11/6
Naito Chikako	South Carolina	アメリカ	2022/11/15
Natsuko Manani	California	アメリカ	2023/2/8
Natsuko Salcido	Oregon	アメリカ	2022/11/7
Negishi Keiko	California	アメリカ	2022/11/12
Nobuyo Sakata	Hawaii	アメリカ	2022/11/20
Okura Saori	New Mexico	アメリカ	2022/11/6
Osamu Mekar	California	アメリカ	2022/11/15
Osamu Sakurada	Illinois	アメリカ	2022/11/6
Rika Taguchi	Illinois	アメリカ	2022/11/7
Ruriko Drake	Oregon	アメリカ	2022/11/30
Rusich Kiyoko	Hawaii	アメリカ	2022/11/6
SAKAMOTO MAKO	California	アメリカ	2022/11/20
Sakuraba Naoshi	Hawaii	アメリカ	2022/11/9
Sally Watanabe	California	アメリカ	2022/11/19

氏名	都道府県(州)	国	賛同日付
Satoko Reynolds	California	アメリカ	2022/11/10
Sawaku Furuya	California	アメリカ	2023/2/5
Sayuri Fretz	Idaho	アメリカ	2022/11/10
Scheidel Miyuki	Georgia	アメリカ	2022/11/6
Seidersmiyagi Etsuko	California	アメリカ	2023/2/7
Shiho Kamada	New York	アメリカ	2023/2/6
Shino Imai	New Mexico	アメリカ	2022/12/15
Shinya Erika		アメリカ	2022/11/7
Shoko Masumoto	California	アメリカ	2022/11/7
Sumiyo Petersen	California	アメリカ	2023/2/6
Tomoe Lettieri	Washington	アメリカ	2022/11/12
Tomoko Mann	California	アメリカ	2023/1/17
Tomomatsu Rieko	Illinois	アメリカ	2022/11/7
Tsubura Hansen	Florida	アメリカ	2022/11/13
Yae Kuroda	California	アメリカ	2022/11/21
Yasuko Sanders	Virginia	アメリカ	2022/12/22
Yuki Harvey	Virginia	アメリカ	2022/11/6
YUKIO MASUDA	Washington	アメリカ	2022/11/6
yuko c	Washington	アメリカ	2022/11/23
かほる 江頭	California	アメリカ	2022/11/13
ちひろ 小田切	Hawaii	アメリカ	2022/11/6
とも 江原	California	アメリカ	2022/11/7
まゆみ 加賀美	California	アメリカ	2022/11/20
ヤスヨ タデオ	California	アメリカ	2022/11/7
ゆかり ウェドビー	Georgia	アメリカ	2023/2/9
綾 佐藤	Florida	アメリカ	2022/11/11
悦代 神谷	California	アメリカ	2022/11/10
喜代子 森	Illinois	アメリカ	2023/1/8
恵美 本城	Hawaii	アメリカ	2022/11/6
光世 細山	California	アメリカ	2022/11/6
幸子 オムズビー	California	アメリカ	2022/11/7
高橋 希代子	Nevada	アメリカ	2022/11/11
晴美 織	New York	アメリカ	2022/11/6
智賀子 松田	Ohio	アメリカ	2023/2/15
智子 彼杵	Florida	アメリカ	2022/11/6
直 水口	Florida	アメリカ	2023/2/6
由紀 青柳	Massachusetts	アメリカ	2022/11/10
Hiroimi Kazamaki		イタリア	2022/11/6
Horikawa Reina		イタリア	2022/11/27
KANEYAMA SADAOKO		イタリア	2022/11/6
KOBAYASHI NANAKA		イタリア	2022/11/9
Makiko Wakita		イタリア	2022/11/7
Noriko Debata		イタリア	2023/1/17
Shindo Yumiko		イタリア	2022/11/4
Stefano Fuschetto		イタリア	2022/11/16
usuda konomi		イタリア	2023/2/7
久美子 霧山		イタリア	2023/2/6
圭子 元井		イタリア	2022/12/25
高山 十一		イタリア	2022/11/6
Ishita Ajmera		インド	2022/11/7
yahagi miyako		インドネシア	2022/11/10
芳子 藤井		インドネシア	2022/11/8
Annakin Chizuko		オーストラリア	2022/11/6
Ayako Ozaki		オーストラリア	2022/11/7
Elly Baudistel		オーストラリア	2022/11/6
Emi Angove		オーストラリア	2022/11/6
Etsuko Nagamori		オーストラリア	2022/11/9
Kae Raab		オーストラリア	2022/11/7
Kazuko Sawada		オーストラリア	2022/11/7
Kei Nagasaki		オーストラリア	2023/2/1
Keiko Sakai		オーストラリア	2022/11/6
Koji Matsuoka		オーストラリア	2022/11/12
Kyoko Peacock		オーストラリア	2023/2/7
Masuoka Marino		オーストラリア	2022/11/6
Naoko Bartlett		オーストラリア	2023/2/7
Naoko Iwashashi		オーストラリア	2022/11/7
Narushima Mitsuko		オーストラリア	2022/11/6
Patruno Mihoko		オーストラリア	2022/11/7
Sachiko Meier		オーストラリア	2022/11/29
Satomi Black		オーストラリア	2022/11/22
Shio Kei		オーストラリア	2022/11/6
Taka Takahashi		オーストラリア	2022/11/19
Takahashi Kiyo		オーストラリア	2022/11/6

氏名	都道府県(州)国	賛同日付
Taku Daiba	オーストラリア	2022/11/7
Tomoko Gates	オーストラリア	2022/11/7
Tomomi Arnold	オーストラリア	2022/11/6
Tsumaki Junko	オーストラリア	2022/11/12
Yoshie Hughes	オーストラリア	2022/11/13
Yukari Kennedy	オーストラリア	2023/1/13
愛理 チャップマン	オーストラリア	2022/11/6
佳子 竹内	オーストラリア	2022/11/11
実紀子 ビーツ	オーストラリア	2022/11/6
真理 阪本	オーストラリア	2022/11/6
聖子 神田	オーストラリア	2022/11/7
内藤 幸子	オーストラリア	2023/2/9
郁代 レスニック	オーストリア	2022/11/6
Misae Endo	オランダ	2022/11/19
Chiyo Saito	カナダ	2022/11/11
kazuta kawashima	カナダ	2022/11/6
Kinoe Tomasek	カナダ	2022/11/6
N M	カナダ	2022/12/20
Naomi Ono	カナダ	2022/11/12
Rie Gasparic	カナダ	2022/11/11
Taeko Shimamura	カナダ	2022/11/13
Ueno Tomoko	カナダ	2022/11/7
愛 萩原	カナダ	2022/11/23
上田 敦子	カナダ	2022/11/6
麻美 佐竹	カナダ	2022/11/11
宮城 裕見子	ケニア	2023/2/6
Chie Itagaki	シンガポール	2022/11/7
真由 長谷川	シンガポール	2022/11/7
祐子 後藤	シンガポール	2022/11/11
恵 杉田	シンガポール	2022/11/13
HIROKO HITOMI	スイス	2022/11/6
Masui Chikako	スイス	2022/11/6
SATO HIROKO	スイス	2022/11/6
Toshiko Östberg	スウェーデン	2022/11/21
Yoshiko Toyoda	スウェーデン	2022/11/19
由美子 吉野	スウェーデン	2022/11/10
Chika Kuramata	スペイン	2022/11/6
Mutsuko Matsui	スペイン	2022/11/13
isao yoneda	タイ	2022/11/12
PATGIRA LERTLEDEEPORN	タイ	2022/11/10
Nao Higano	チェコ共和国	2022/11/7
Akemi Yamashita	ドイツ	2022/11/6
Azusa Hasegawa	ドイツ	2022/11/6
Mihoko Yamagishi	ドイツ	2022/11/15
Mutsumi Tcai	ドイツ	2022/11/7
Tomoko Lutsch	ドイツ	2022/11/10
Yuko Sanzenbacher	ドイツ	2022/11/10
恵子 ヴァイス	ドイツ	2022/11/6
順枝 ウルバン	ドイツ	2023/2/14
narita yuko	トルコ	2022/11/6
Bourke Yuko	ニュージーランド	2022/11/6
Hisako Minami-France	ニュージーランド	2022/11/6
Kanako Johnson	ニュージーランド	2022/11/12
Maekawa Haruna	ニュージーランド	2022/11/6
Nicky Miho	ニュージーランド	2022/11/8
Renz Harumi	ニュージーランド	2022/11/7
Tsubasa Kawaishi	ニュージーランド	2022/11/6
弘美 デイヴィース	ニュージーランド	2022/11/6
Anna Soma	ノルウェー	2022/11/26
Koji Kobayashi	フィリピン	2022/11/9
sunayama mankichi	フィリピン	2022/11/6
浦方 正浩	フィリピン	2022/11/6
Hashimoto Masuo	ブラジル	2022/11/7
功 鈴木	ブラジル	2022/11/6
美江子 ひが	ブラジル	2022/11/21
文美 榎原	ブラジル	2022/11/6
Kanna Igarashi	フランス	2022/11/6
Misako Tabe	フランス	2022/11/11
Noriko Monceaux Chikatsu	フランス	2022/11/21
Shiho Sato	フランス	2022/11/6
shizuko kaminski	フランス	2022/11/10
Tsuchihata Michiko	フランス	2023/2/4

氏名	都道府県(州)国	賛同日付
Yumi OGAWA	フランス	2022/11/23
幸子 飛永	フランス	2022/11/6
千重子 今村	フランス	2022/11/28
比嘉 歩美	フランス	2022/11/22
由美子 清水	フランス	2023/2/6
Suzuki Yuko	ベルギー	2022/11/10
Hitomi Fukudome	マレーシア	2022/11/24
noboru hirota	マレーシア	2022/11/6
YOSHIKO FUJIKAWA	マレーシア	2022/11/19
康介 大西	マレーシア	2022/11/6
菅原 美香	マレーシア	2022/11/10
Hanako Sato	メキシコ	2022/11/27
Michiko Demura	メキシコ	2022/11/7
Yukito Ouchi	メキシコ	2023/1/17
阿部 久美子	メキシコ	2022/11/9
田村 祐樹	メキシコ	2022/11/19
Katsuki Yoko	モロッコ	2022/11/7
Chiemi Ikuta	England 英国	2022/11/6
Keiko Moorhouse	England 英国	2022/11/7
Keiko Ogasawara	England 英国	2022/11/20
Masako Brown	英国	2022/11/8
Mayuko Kataoka	英国	2022/11/7
Mieko Takanami	England 英国	2022/11/9
miki costello	England 英国	2022/11/6
Tomoe Seki	England 英国	2022/11/6
Yoko Dennis	英国	2022/11/7
ライオン ゆかり	England 英国	2022/11/6
睦 馬場	英国	2022/11/25
Fujimoto Shu	香港	2022/11/7
hiro naga	香港	2022/11/20
英雄 山田	香港	2022/11/19
BABA ATSUSHI	台湾	2022/11/12
Eri Ka Ho	台湾	2022/11/17
michiyo fukunaga	台湾	2022/11/19
Mika Jiuqing	台湾	2022/11/7
takashi nozaki	台湾	2022/11/7
FUJIWARA YUKA	大韓民国	2022/11/6
KURAHAYASHI CHINATSU	大韓民国	2022/11/8
moon yosun	大韓民国	2022/11/6
SAKAGUCHI HARUMI	大韓民国	2022/11/6
SHINO SUGAWARA	大韓民国	2022/11/10
Tai Miyuki	大韓民国	2022/11/6
Tomoko Uehira	大韓民国	2023/2/10
尚子 アルバロード	大韓民国	2022/11/11
松井 加奈子	大韓民国	2022/11/10
藍 溝上	大韓民国	2022/12/8

『風車学習会』チラシ No.1~4 (2022/8~ 現在も継続中)

第一回
風力発電を学ぶ会
in 仁木

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

8月10日
13:00~16:00

仁木町民センター
多目的文化ホール

定員：300名
参加：無料

健康、農産業、国防にも影響
巨大風力
発電が仁木町に!!

【風力発電の問題点】
1.騒音(人、畜、鳥)
2.鳥獣被害への影響
3.生活環境への影響
4.景観への影響
5.風力発電のリスク

STOP風車
学習会

13:00~16:00
8月20日
仁木町民センター
多目的文化ホール

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

定員：300名
参加：無料

参加のお誘い

- 風力発電は、地域住民の許容範囲には定まることがありません。
- 私たちの町は、私たちで守るしかないのです。
- 風力発電は、クリーンな自然再生エネルギーではありません。

子どもたちの為にも、仁木のきれいで安全な自然を、みんなで守りましょう。

STOP風車
学習会

13:00~16:30
9月23日
仁木町民センター
多目的文化ホール

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子
講師：中山の月

定員：300名
参加：無料

参加のお誘い

風力発電は、地域住民の許容範囲には定まることがありません。

私たちの町は、私たちで守るしかないのです。

風力発電は、クリーンな自然再生エネルギーではありません。

子どもたちの為にも、故郷のきれいで安全な自然を、みんなで守りましょう。

あなたちは、私たちの町の山中に、150mの風車が60基建つことを知っていますか?

本当は怖い...?
風力発電!

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

定員：300名
参加：無料

第一次反対署名 期限10月20日(日)開始

STOP風車
学習会

13:00~16:30
10月22日
仁木町民センター
多目的文化ホール

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

定員：300名
参加：無料

これは、マジ、ヤバいかも...?!

風力発電の信用保証制度で苦しんでいます。風車を撤去してください。被害者を否定することはできません。和歌山の山梨町では、たくさんの風力被害者が苦しみにからなくなりました。

講師：山梨守生

定員：300名
参加：無料

STOP風車
学習会

11/19
仁木町民センター
多目的文化ホール

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

定員：300名
参加：無料

STOP風車
学習会

12/17
仁木町民センター
和室

「風力発電問題」の国会質疑を放映

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

定員：50名
参加：無料

入場無料

食と環境と発酵

講師：佐々木輝夫

2023/1/21

STOP風車
学習会

風力発電は正義に反する。

2月18日
仁木町民センター

講師：市川守弘

参加無料

再工木の真実と私たちの未来

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

参加無料

STOP風車
学習会

小樽全市周辺の地形と地質の特徴

2023年
4月15日
13:00~15:00
仁木町民センター

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

参加無料

STOP風車
学習会

風車騒音による健康影響についての科学的知見

2023年
5月20日
13:00~15:00
仁木町民センター

講師：佐々木輝夫
講師：土井茂子

参加無料

絵本・小冊子の発行



「巨大風車から故郷を暮らしを守りたい」
2022年8月発行



「キニたちの未来」2022年10月発行



「森のはたらき」
2023年2月発行



「稚内その風の会」発行協力



「風車は惜しみなくイノチを奪う」
2023年5月発行予定

『風の祈り』シリーズ序章～No.10（2022/7～ 現在も継続中）





国連は

脱炭素化の理由は二酸化炭素(CO2)の増加なので、各国が削減目標を立てて、これに向けて努力しなければいけないと述べています。
 火力発電はCO2を大量に排出するので、そればかりは、風力で持続可能な自然エネルギーとして、太陽光や水力が再生を始めてきたわけです。
 しかし、それらを代替するために大量の森林伐採が行われ、土砂災害が起きたり、自然の生態系が破壊されたり、北海道の大自然が取り壊されて、今、危機を上げています。一方で、

国連の専門機関(ICPP)では、

二酸化炭素(CO2)削減の最大の理由は森林破壊と述べています。
 森林は、二酸化炭素(CO2)を吸収し、酸素を輩出してくれる最大の二酸化炭素(CO2)吸収機関であるからです。
 もともと、緑がなくて人間がたつところに建てたのならいざ知らず、「森林にはそういう価値がなくなった」(12月9日)大沢町の説明会で国連の国連と述べて、国内電力が、北海道まで出てきて、しかも市の国産林であり、保安林の山々を伐採して発電を定めていくのは、どう考えてもエコでもSDG+でもありません。

(公益財団法人)日本自然保護協会では

「このような自然保護上で重要な森林を保護圏に開発する行為は、自然保護保全上、行方不明でなく、そもそも北海道に建設を計画した事業者の見識が問われる」と、厳しく風力電力を批判しています。

各団体における関西電力に対する意見

今回仁木町の事業のほぼ全域が自然豊かな山岳。それは日本でも、市町にも満たない国有林・保安林の貴重な自然資源だ。
 環境大臣の近く「再エネ推進区域」には指定し、全く許可しないのは、誰の目にも明らかだ。



仁木町に「陳情書」を提出

仁木・余市・吉野の風力発電の建設延期は、今、大分山田町を過ぎようとしています。2月17日10時に、これまで集まった陳情書に反対の署名を、仁木町長と町議会議長に陳情する予定です。

それは、建設予定地の銀山、真沢、花巻内等8割以上(民主を除く)の反対署名が集まったこと、それ以外の地域でも、また署名運動に盛り込んでいくだけで、悪ければ、署名して下さるお声かけの御礼として届かなくてはならないので、毎日町議の御禮だと考えています。選挙を待って欲しいというのではなく、「仁木町の風力発電を考える会」の存在や一部の町民が反対しているだけでないことを、行政に伝えて欲しいと思っています。

後戻り出来ない保安林の指定解除

国連電力が、風車建設を進める方針の継続。保安林の指定解除は、行政の目(町長)と、自治会長に押し出されます。多額の仕立保証として、署名によって、町長や自治会長、町会議長の方々にお声かけして行く必要があります。

保安林の指定解除は、町長の法律では、一度解除してしまえば、どんなに都合の良い状況があっても、取り戻し出来ない状態になっています。今、ここで反対しなければ、定まるのはだんだん難しくなって行きます。

2月18日の風車の学習会に是非ご参加を!

「風力発電は正義に反する」講師：井澤幸 市川守弘氏
 時間：午後1~4時 場所：仁木町民センター

署名活動にご協力を! (署名：ご一顧下されば取りに伺います)

2月7日現在署名数と内訳

銀山・真沢・花巻内	325 筆	大沢	44 筆	花巻	7 筆	仁木本町	346 筆
余市	87 筆	道内	173 筆	道外	487 筆	団体	2 筆
ザンダル署名	9,903 筆					合計	14,303 筆

仁木町の風力発電を考える会発行 代表 瀬川真人 仁木町銀山2-521 電話 8135-33-5597



令和5年3月11日

「風力発電は正義ではない!!」

去る2月18日、「仁木町の風車を考える会」主催で、市川守弘弁護士の学習会「風力発電は正義に反する!!」が、町民センターで開催されました。
 先生は、各地で住民の立場に立ち、弁護士として、利権エネルギーの不条理と戦っておられる方です。



- 風車は日本国憲法第二十五条(住1)に反すること
 - トランプを起している風車の被害地域の多さ
 - 反対運動が全国的に巻き上がっていること
 - 住民の反対で建設が中止になったところなど、多くのことを学ばせて頂きました。
- (住1) すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

「再エネ特措法」はザル法だった

再エネを急速に促進するために、法律が大幅に規制緩和されていて、「再エネ特措法」は、抜け穴だらけになっています。
 行政の長が「保安林解除」する前に、「農道は、保安林には当たらない」という解釈で、業者は工事用道路の建設を、どんどん認められるという事が分かりました。

銀山の住民説明会で

「低周波音の騒音被害について」質問がありました。



3月10日、陳情書が議会運営委員会から本議会に上程

3月10日、仁木町の風力発電を考える会が、議会に提出した「陳情書」が、3月20日に「議会運営委員会」にかけられるとの連絡がありました。「考える会」のメンバー10人ほどで傍聴に行きました。

結果、3月22日の本議会に上呈してもらえることになり、また20名ほどで傍聴に行きました。

「総務経済常任委員会」に付託

結果、「総務経済常任委員会」に付託され、継続審議されることになりました。議会が、町民の署名と陳情に真摯に向き合っていることを実感できました。

「総務経済常任委員会」では、始末の調査をするともに、「委員会の委員の方々と、「考える会」のメンバーで話し合いの機会も設けてもらえるようです。

これを機に、「考える会」の学習会に、参加されたことのない町会議員さんにも、「総務経済常任委員会」の議員調査の一環として、是非参加して置いて、町民の皆さまと認識を共にして頂ければと思います。

北海道新聞 2023.3.23朝刊

『新聞記事抜粋』



「風力発電反対」町に陳情書提出
住民有志

【仁木】関西電力が計画中の風力発電事業（仮称）古平・仁木・余市ウインドファーム」を巡り、住民有志藤町長（手前）に陳情書を手渡す「仁木町の風力発電を考える会」のメンバー

志でつくる「仁木町の風力発電を考える会」は17日、町役場で佐藤聖一郎町長と面会し、同事業に対する反対陳情書を手渡した。

陳情書は、低周波音による健康被害への不安や森林伐採に伴う生態系への影響、土砂災害の恐れなどを理由に反対するとしている。町に対しては、全町民を対象とした説明会開催を

要望。また、16日までに届いた反対署名1万4878筆を提出した。

同会の酒井雄大さん(35)は「住民の意向をくみ取り、道知事に対し風車建設反対の意志を表明していただきたい」と要望。佐藤町長は「計画については中立の立場であることを理解してほしい」と応じた。(松嶋加奈)

海底送電線 600万キロ新設

道内―東北 北本合わせ8倍

国の計画で、電力の送電効率を向上させるため、海底送電線の新設が計画されている。道内と東北を結ぶ海底送電線の新設が、従来の送電線に比べて、送電容量が約8倍になると見込まれている。道内と東北を結ぶ海底送電線の新設が、従来の送電線に比べて、送電容量が約8倍になると見込まれている。



2月27日、町民センターにおいて、仁木町風力発電事業×再生可能エネルギーセミナーを開催しました。

同セミナーは、町が目指す再生可能エネルギーの目標像を確立し、地元企業や地域を支援するための方向性を示すこと、及び地域事業者や地域住民の認識向上に向けた意識の醸成を図ることを目的とした「仁木町再生可能エネルギービジョン」の策定に向けて開催したもので、当日は約50名の方が参加されました。

なお、町では、同セミナーの開催後、令和5年4月1日付けで、「仁木町再生可能エネルギービジョン」を策定しており、今後、同ビジョンをもとに、本町の気象、地形、自然条件などの地域特性等を盛り込んだ、仁木町独自の再生可能エネルギー導入促進・仁木モデルの構築を目指してまいります。



大型風力計画の2割 イヌワシ生息地

日本自然保護協会が報告書



風況調査などが実施された美浜新庄ウインドファーム発電事業の予定地「福井風美新庄(登山ガイドの筆村氏提供)」

全国の大規模陸上風力発電所計画の2割は、国内に約500羽しかいないイヌワシの生息地と建設予定地が重なり、生息に悪影響が懸念されるとの報告書を日本自然保護協会が6日公表した。地球温暖化対策として大型風力発電所の計画が急増しており、報告書は、真に持続可能な再生可能エネルギー推進のため、生物多様性に重要な地域を避けるべきだとした。特に影響が大きい計画は中止を求めた。2018年以降に公表された267件の環境影響評価(アセスメント)の書類を対象に、保安林や国立公園との重なり、希少鳥類の生息地の有無など14項目で分析した。すると、7割以上の予定地に保



絶滅危惧種のイヌワシ(日本自然保護協会提供)

安林が含まれていた。保安林は水源確保や土砂災害防止のために伐採などが規制され、建設には国や知事の指定解除が必要。2割は国の天然記念物で絶滅危惧種のイヌワシ、5割は絶滅危惧種クマタカの生息地と重なっていた。

報告書はさらに、強い環境影響が懸念される10件を抽出した。このうちグリーンパワーインベストメント(GPI)の美浜新庄ウインドファーム発電事業(福井県)の予定地は、ブナの巨木が点在し「極めて自然度が高い」と指摘した。自然保護協会は、事前の風況調査で樹齢250年超のブナが伐採された可能性が高いとみており、計画中止を求めた。関西電力の古平・仁木・余市ウインドファーム事業(北海道)は予定地にイヌワシの生息が確認され、ほぼ全域が保安林のため建設をやるべきだとした。

取材に対しGPIは「意見を厳密に受け止め、自然環境への影響低減に向けて検討していく」、関電は「環境保全に十分配慮している」と評価していた。ただ、事業計画を検討する」とした。

風力発電の陳情を委員会付託
 仁木町 定例会は22日再開し、予算特別委に付託していた2023年度一般会計予算案など議案10件、発議1件、意見書案3件を原案通り可決。関西電力が計画中の風力発電事業「(仮称)古平・仁木・余市ウインドファーム」に関して、住民有志でつくる「仁木町の風力発電を考える会」が提出した陳情について、総務経済委に付託することを決め、閉会した。

風力発電問題を語る

札幌で専門家ら「環境、健康に影響」



風力発電施設の問題点が報告されたシンポジウム(23日、札幌市で)

風力発電施設が自然環境や人間の健康にもたらす影響を考えるシンポジウムが23日、札幌市で開かれた。今年6月に結成された市

が施設に衝突する事故は道内を中心に70件を超えており、専門家らが問題点を指摘した。

民間団体「北海道風力発電ネットワーク」が主催の日本自然保護協会(東京)の若松伸彦・保護チーム長は、山奥で大規模な施設が計画されていると指摘し、環境への配慮がない施設「見せかけの環境対策」と批判した。

猛禽類を研究する東京大の白木彰子准教授は、シロワシなど多くの野鳥衝突事故を報告し、「発生されるのは偶然で氷山の一角」と話した。

北海道大学の田鎖順助教授は、風車の騒音の事を紹介し「健康リスクの軽減が行われていない」と国策の問題点を指摘した

つれづれ@余市支局

札幌で先進7カ国(G7)気候・エネルギー・環境相会合が開かれた15日、仁木町内で風力発電に関する勉強会があった。市民団体「仁木町の風力発電を考える会」のSTOP風車学習会、小樽や余市、仁木町辺りで進む計画について、専門家3人が周辺の地形や地質について講演、約50人が意見交換した。

道教大の岡村聡名誉教授は「計画地は地滑りが多発した場所。大規模な風車建設が誘発する危険性がある」と指摘。主催者からは事業への反対署名が1万5900筆を超えたことも紹介された。

地球温暖化防止や今後の経済成長の鍵を握るとされる再生可能エネルギー。道内は風力発電を中心に新規参入計画が相次ぐ。ただ計画を巡っては各地で住民との摩擦が生じているのも事実だ。考える会は計11回の勉強会を通じて知識を深め、瀬川裕人代表は「住民の反対を押し切って巨大な風車を建てる意味はどこにあるのか」と訴える。

環境相会合では再エネ推進がうたわれ、道と札幌市は脱炭素エネルギー基地として世界に貢献することを誓った。であれば住民理解は不可欠のはず。地域を見据えた対話が求められる。(伊藤圭三)

風力発電 地域見据えた対話を

道内12市町村で風力発電 (関電計画、計52万5千kw)

全道ネット設立 宮城知事、違和感

風力発電反対派 全道ネット設立
 風力発電反対派の連帯を目的とした「全道風力発電反対派ネットワーク」が設立された。道内各地の反対派が連携し、風力発電の推進を阻むことに努める。ネットワークの設立は、道民の権利を守り、環境を守ることを目指す。また、風力発電の推進に反対する声を、行政や関係機関に伝える役割も果たす。

風車 北海道NET 道新22.6.16.

関電の風力発電 「事業に違和感」
 宮城知事 関電の風力発電事業に「事業に違和感」を抱いていると、宮城知事(宮城)が述べた。関電が道内に計画している風力発電事業は、大規模な風車と送電線が特徴的だ。知事は、地域の景観や環境への影響を懸念している。また、風力発電の推進に反対する住民の声を、関係機関に伝える役割も果たす。

風車 宮城県知事 道新22.6.16.

道内4カ所で風力発電 関電計画、計52万5千kw

関電の風力発電計画は、道内4カ所で計52万5千kwの発電能力を持つ。計画されているのは、古平・仁木・余市ウインドファーム、山越ウインドファーム、山越ウインドファーム、山越ウインドファーム。各施設は、大規模な風車と送電線が特徴的だ。計画は、道民の権利を守り、環境を守ることを目指す。また、風力発電の推進に反対する住民の声を、関係機関に伝える役割も果たす。

風車 道内4カ所 道新22.5.31.



こんにちは。「仁木町の風力発電を考える会」です。



HOME

風力の問題点

カテゴリー

運営団体について

記事一覧

署名&メッセージ

寄付のお願い

お役立ちリンク



「仁木町の風力発電を考える会」

ホームページ

<http://niki-wind.main.jp>



「陳情書」その後

2023.5.11.

株式会社まほろば自然農園

代表 宮下洋子

ご紹介に預かりました、「株まほろば自然農園」代表の宮下洋子です。30年前に、札幌にて新規就農し、6年前、仁木町の西町11丁目に移り、改めて新規就農させて頂きました。今年で7年目になります。

今日は、町議会が住民の風力発電反対の陳情を取り上げて下さり、「総務経済常任委員会」に於きまして、発言の機会を与えて下さったこと、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

去る、3月10日、町に陳情書を納めさせて頂きまして以来、風力発電を取り巻く環境や、これまで見えなかった実態が、ますます明らかにされて来ます。

今日はその後の補足をさせて頂きたいと思います。

時間的制約もございますので、詳しくはお配りした添付の資料により、ご理解を深めて頂ければ幸いです。



1, 風力発電の不思議

風力発電の多くは火力発電の電気で回っていたこと。年間平均風速が 2.3 m/s の仁木・余市地区では、風車は物理的に風で回らないことが明らかになりました。採算ベースに合わないどころか、脱炭素にもならず、風車建設自体の意義が疑われています。

参考資料① (『風のたより』第9章 10, 11頁)

(『風のたより』第7章 7, 11頁)

*①は付箋番号です

2, 自然へのダメージ全国ワースト1・2

「公益財団法人 日本自然保護協会」の5年間の調査によりますと、全国267か所中、全国ワースト2。

最も風車を作ってはいけない条件を備えた環境調査では、仁木町が**実質**、全国ワースト1であったことが発表されました。

参考資料② (『風の祈り』第10章 1~4頁)

3, 最後は、自治体と町民にツケが

「**再エネ特別措置法**」では、使用済み風車の撤去義務がなく、中型風車一基撤去するのに約3億円かかると言われています。(仁木町では、さらに費用がかかる200m級メガ大型風車が**10基前後**、建設予定)

国からの補助金や、企業からの寄付金、固定資産税などを、どれほどもらったとしても、自治体として採算の取れる話ではないように思われます。最終的な責任は、当該自治体にかかってくることになるからです。つまり、町民が撤去費用として、何十億という負債を背負うかもしれないという心配があります。

参考資料③ (「風車」チラシ 3月11日号)

(『風の祈り』第6章 4, 7頁)

(『風の祈り』第10章 10頁)

4, 事業者は責任逃れ出来る仕組み

事業者は、投資ファンド目的の **SPC**（合同会社・特別目的会社）を作って業務を委託し、入金先は別にペーパーカンパニーを作って送金させ、都合がわるくなれば、いつでも **SPC** を倒産させて、親会社が責任逃れ出来る巧妙な仕組みになっています。

参考資料④（『風の祈り』第6章 4頁）

5, 留寿都村の事例

留寿都村では15基の風車建設計画があり、「風車の建設を許可してくれれば、20年間で10億円の寄付をする」と言われ、村長が業者と契約書を交わしました。しかし、実際には、外資系企業側の保証人不在、捺印もない違法契約書でした。後に、住民が気付いて、裁判に訴えたのですが、昨年末、住民側が敗訴したそうです。留寿都村では20年後に約45億円の負の遺産を抱えることになりました。

参考資料⑤（『風の祈り』第10章 10～12頁）

6, 世界の潮流に逆行

ウクライナ戦争以降、EU は緊急時に直面して、バックアップ電源の必要な風車やメガソーラーは、現実的に脱炭素（カーボンニュートラル）に貢献しないことを身を以て理解し、他の再エネ機関や超低炭素排出の火力発電にシフトを代えました。これが今の世界の潮流です。その失敗策を、何故敢えて日本が選択するのか、選択させられるのか。自然を破壊して負の遺産しか残さない風車を推進するのか、理解に苦しみます。今こそ、「仁木は、事業者に、道に、国に、風車NO!の宣言を掲げるべき」です。

参考資料⑥（『風の祈り』第7章 8～10頁）

最後に

全国的にメガソーラーや、メガ風車によって、原生林が18パーセントに減ってしまいましたが（これから北海道では3000基以上の建設計画があるので、計画が実行されればもっと減ると思います）それらのほとんどは、人里から離れています。

仁木のように、民家や農地に隣接して存在する原生林は、全国でも数少ないのです。

その希少な山から流れ出る清冽な水で、美味しい仁木のお米も、果物も、ミニトマトも、山菜や天然のキノコにも恵まれ、海の幸にも恵まれて、人々は皆親切で、優しくしてくれます。誰もが住みたいと思う美しくも豊かなところですよ。日本でも稀に見る貴重な土地柄・人柄なのです。

それが、何物にも代えがたい仁木の財産であり、宝です。村おこしは、この自然を壊さないことを原点とすべきではないでしょうか。

一度壊された森林は100年経たなければ戻らないそうです。しかし、自然林・原生林は何百年経っても再び元に復すのは難しいと言われています。仁木は今、大きな選択を迫られています。是非、議員の皆様には、百年、千年の大計を立てて頂きたいと願って止みません。

以上です。最後まで聞いて頂いてありがとうございました。



美しい銀山の田園風景